

藻場と保全の取り組み (No.①)

藻場の名称	由良町衣奈、戸津井、大引、小引地先		
海域（府県）名*1	紀伊水道（和歌山県）	エリア名*1	由良湾
藻場の面積	1 0 0 ha 出典：【（環境省生物多様性の観点から重要性の高い地域）】		
藻場のタイプ	アマモ場	ガラモ場	アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）
藻場の特徴	由良町衣奈地区から大引地区は瀬戸内海に含まれるが、太平洋との境界に近く、黒潮の影響を比較的強く受ける。この地区の地先は主に磯であり、所々に砂浜がある。磯には、アワビ類の生息にとって有用なカジメ・クロメ類やアカモクなどの海藻が見られる。		
保全の取り組み名称	磯根漁場再生事業		
実施団体名	由良町		
連絡先住所	〒649-1111 和歌山県日高郡由良町里 1220-1		
代表者名	由良町長	Email	sanken@town.yura.lg.jp
団体会員数	名	HP	http://www.town.yura.wakayama.jp/
（活動の概要） 磯焼けの発生により、アワビ類等の磯根資源が衰退しているため、由良町漁業振興協議会が行うカジメやアカモクなどを実海域に移植する藻場造成に対して支援を行い、磯根資源の再生を図る。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・平成29年1月17日 天然海域から採取したカジメと人工的に生産したカジメ種苗を磯焼け海域に移植した。その際、アイゴやウニ類による食害を防ぐため、移植場所をネットによって取り囲んだ。  ・平成29年5月8日 天然海域に生育しているアカモクを採取し、人工魚礁を用いて磯焼け海域に移植した。 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：ハヤブサ、ウミネコ ○藻場の生き物：アカメ、ヒゲダイ、ヒゲソリダイ、クロコショウダイ、クロダイ、ヘダイ、カサゴ、ニジギンバ、リュウグウハゼ、サビハゼ、サツキハゼ、アイゴ、クサフグ、アメフラシ、タツナミガイ、ウミナメクジ、アカウニ、ムラサキウニ、ガンガゼ、ツマジロナガウニ ○海藻（海草）：アマモ、ウミヒルモ、カジメ、アカモク、ガラモ、ホンダワラ、マメダワラ ○植物：	
希少種の特徴等	
○野鳥：海岸沿いにハヤブサが周年見られる。また隣接地にウミネコの繁殖地がある。 ○藻場の生き物：隣接する湯浅湾でアカメの目撃、捕獲がたびたびあり、アカメの繁殖環境として沿岸藻場は重要であることから本海域の利用も考えられる。 ○海藻（海草）：前述の海藻類に加えて、小規模なアマモ群落、ウミヒルモ群落が点在する。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

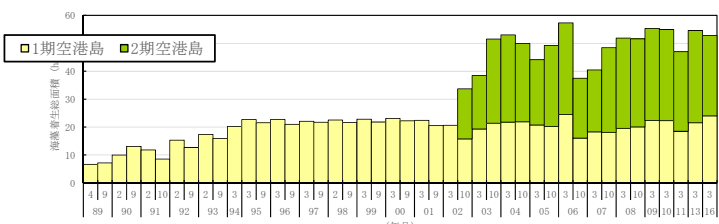
藻場と保全の取り組み (No. ②)

藻場の名称	徳島市漁業協同組合前		
海域（府県）名*1	紀伊水道（徳島県）	エリア名*1	
藻場の面積	8.2㎡ 出典：【水産研究課現地調査：2017.6】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	砂泥質の浜で、以前はアマモが衰退していた場所。アマモ場づくり活動によって、近年アマモ場が再生されつつある。		
保全の取り組み名称	アマモ場づくり活動		
実施団体名	徳島県漁業士会		
連絡先住所	〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地 徳島県農林水産部水産振興課内		
代表者名	美馬 守	Email	suisanshinkouka@pref.tokushima.jp
団体会員数	36名	HP	
（活動の概要） 徳島市津田地区において、地元小学校、地元漁業協同組合青壮年部と連携したアマモの播種作業を行い、アマモ場の再生と環境学習を実施。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ） （最近の活動実績） ・平成29年6月20日 アマモ播種体験			
			
播種作業		環境学習	
			
アマモ		環境学習	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	は希少種
○藻場の生物：メバル、カサゴ、クマエビ、ガザミ ○海藻（海草）：アマモ	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. ③)

藻場の名称	関西国際空港島藻場		
海域（府県）名*1	大阪湾（大阪府）	エリア名*1	
藻場の面積	53ha 出典：【自主調査（2016年3月）の結果より】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	大阪湾南東部、泉州沖約 5km の場所に造成された人工島の周囲の護岸に形成されている藻場。空港島造成時、護岸の大部分に「緩傾斜石積護岸」を採用し人工の浅場を設け、藻場づくりの取り組みを行った。現在では海藻が繁茂し、様々な魚介類の生息場となっており、約 200 種類の生き物が確認されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	関西エアポート株式会社		
連絡先住所	〒549-8501 大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地		
代表者名	技術部 スマート愛ランドグループ	Email	—
団体会員数	— 名	HP	http://www.kansai-airports.co.jp/efforts/environment/kix/smart-island/report.html
（活動の概要） 1989 年の 1 期空港島の護岸完成時から、良好な藻場の育成と維持・拡大を目指し、モニタリングをはじめとする各種調査・実験が行われてきた。2 期空港島の造成時には、1 期空港島での実績や知見を踏まえて海藻が生育しやすい環境をつくり、拡大させてきた。現在においてもモニタリングを継続し、豊かな藻場環境の創造に向けて取り組んでいる。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 定期的なモニタリング調査の実施。  図 1 空港島の海藻着生総面積の推移  写真 1 ガラモ場に集まるメバルの幼稚魚  写真 2 シダモクなど  写真 3 カジメ - カジメ母藻の移植によるカジメ場拡大実験の実施。			

近年、海中林として魚介類のすみかとなるカジメの減少傾向がみられたことをうけ、母藻移植によるカジメ場拡大実験を実施している。移植にあたっては、カジメ母藻の活性を維持し、継続的な種苗の供給ができるよう、カジメが付着した石材ごと移植する手法を用いている。2017 年 10 月のモニタリング調査において、移植した母藻周辺に幼体を確認した。



写真 4 母藻採取



写真 5 石材に付着したカジメの母藻



写真 6 母藻移設

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	希少種
○野鳥：— ○藻場の生き物：メバル、カサゴ、キジハタ、ウニ、サザエ、アワビ 等 ○海藻（海草）：カジメ、ワカメ、シダモク、タマハハキモク、ヨレモクモドキ 等 ○植物：—	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. ④)

藻場の名称	阪南市鳥取地先(波有手アマモ場)		
海域(府県)名 ^{*1}	大阪湾(大阪府)	エリア名 ^{*1}	
藻場の面積	0.9ha 出典:【「南泉州地域の藻場を活用した環境・人・文化の調和」活動報告書(平成29年度大阪府環境保全活動補助金事業)】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他()		
藻場の特徴	西鳥取漁港の東の離岸堤岸側に位置し、干潮時の水深が1mを切る流れが比較的速い砂質土の海浜。多年生のアマモが帯状に分布している。西鳥取漁港を挟んだ西側にも0.2haのアマモ群落がある。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生・保全のための移植・啓発活動		
実施団体名	NPO 法人環境教育技術振興会/NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター(代表窓口)/阪南市立西鳥取小学校		
連絡先住所	〒556-0021 大阪市浪速区幸町3-1-10 日本ミクニヤ(株)内(NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター)		
代表者名	中原紘之	Email	mari-co@osakawan.or.jp
団体会員数	— 名	HP	http://osakawan.or.jp/
(活動の概要) 南泉州地域の自然環境や水産物、文化などの資源を一般市民に広く知ってもらい、かつての身近な海“大阪湾”を再生するために、大阪湾における体験型環境教育・啓発活動を実施。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会 学習会 他との協同連携 その他()			
(最近の活動実績)			
1. アマモ開花状況調査およびアマモ場面積調査 平成30年4月18日～20日および5月1日、5月17日に阪南市全域でのアマモ開花状況調査およびアマモ場面積調査を行った。調査は干潮時の目視およびドローンによる空撮で行った。  			
2. アマモ苗移植 平成30年5月15日～17日に、阪南市にある西鳥取漁港周辺および下庄漁港周辺の3ヶ所で、阪南市立西鳥取小学校、阪南市立舞小学校、阪南市立下庄小学校の授業の一環として、前年度校内で生育させていたアマモ苗の移植を行った。 なお、アマモ場再生活動は前年度より関西大学北陽高等学校と連携して実施しており、小学生への指導や授業の一部を担当している。			



3. アマモ花枝採取

平成30年6月2日に、セブン-イレブン記念財団の環境保全活動である「セブン海の森づくりプロジェクト」の一環として、阪南市鳥取のアマモ場前面海浜で海岸清掃を行った。なお、花枝の成長が例年より遅く、未成熟であったため、花枝採取は6月15日に実施した。平成30年6月14日に阪南市立西鳥取小学校の授業の一環として、アマモ花枝採取を行った。



4. 今後の予定

- ①種子選別(9月)
- ②全国アマモサミット2018in 阪南(11月2日～4日)
- ③アマモ苗床づくり・播種(11月～12月)

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省:H28年～30年)参照

関連する生物種等	希少種
○野鳥: ○藻場の生き物:イシガレイ(幼魚)、メバル(幼魚)、ホウボウ(幼魚)、ヒメイカ、ヨウジウオ、タツノオトシゴ、ミドリアマモウミウシ ○海藻(海草):アマモ、オゴノリ、ミル、タオヤギソウ ○植物:	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑤)

藻場の名称	男里川河口等		
海域（府県）名*1	大阪湾（大阪府）	エリア名*1	泉南市・阪南市・岬町海域
藻場の面積	— ha 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	アマモ場は、かつて広域的に分布していたが、現状調査により量的には減少したが生育を確認した。また、近年、再生活動による分布拡大が確認された。		
保全の取り組み名称	アマモ場の現状調査・再生活動（種子採集、播種、育成、植付など）		
実施団体名	男里川干潟を守る会（平成7年4月設立）		
連絡先住所	〒590-0521 大阪府泉南市樽井2-5-2		
代表者名	田中 正視	Email	masami-t@nike.eonet.ne.jp
団体会員数	20 名	HP	なし
（活動の概要） ・ 定例清掃・観察会：毎月1回（第4日曜） ・ 環境学習の実施：地元（泉南市・阪南市など）の幼稚園・保育所・小学校・中学校など ・ 調査活動など：「アマモ場再生」環境学習（講義・実習、種子採集・播種・育成など現地活動） 「大阪湾見守りネット」（「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」）に、設立以来参加・発表 「大阪湾生き物一斉調査」に、平成20年第1回から参加（樫井川河口・男里川河口干潟） 「私の水辺大発表会」泉南子ども交流会に平成18年から参加、企画運営委員 「泉南市ABCまつり」「魚庭（なにわ）の海づくり大会」などでのパネル展示発表など			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 平成29年5月27日 （活動内容） 第10回大阪湾生き物一斉調査（泉南市岡田浦） アマモ場現状調査・生き物調査など 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：－ ○藻場の生き物：－ ○海藻（海草）：アマモ、ワカメ、アオサ ○植物：ハマヒルガオ	
希少種の特徴等	
	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑥)

藻場の名称	尼崎西宮芦屋港周辺		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	— ha 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 <u>ワカメ場</u> その他（ ）		
藻場の特徴	尼崎西宮芦屋港内の直立護岸を利用したロープ式の人工藻場		
保全の取り組み名称	尼崎の海でワカメを育てよう		
実施団体名	尼海の会（協力：大阪湾広域臨海環境整備センター）		
連絡先住所	〒641-0035 和歌山県和歌山市関戸 2-3-2		
代表者名	平井 研	Email	tidalflat01@mail.goo.ne.jp
団体会員数	40 名	HP	http://hito-sizen-machidukuri.jp/
（活動の概要） 本活動では、尼崎西宮芦屋港内の直立護岸において、水質浄化や生物生息場の創出などの環境修復を目的として、ワカメの育成に関する調査・研究を実施している。ワカメは、種糸をつけたロープを 12 月頃から海中に設置して育成している。なお、本活動では、「ジュンカン」をテーマとした環境教育も同時に実施しており、その内容は、育ったワカメを堆肥化→堆肥を利用して菜の花を育成→菜の花から菜種、菜種油を回収→油を使って天ぷら→体内を通過して海の恵みが海に還る、といったものである。この一連の「ジュンカン」を徳島大学や地元の中学生や市民、NPO や企業と協働し、実施している。			
（主な活動内容） <u>種の供給・再生</u> <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 <u>研修会・学習会</u> <u>他との協同連携</u> その他（ ）			
（最近の活動実績） ・2010 年 12 月 25 日 第 1 回 ワカメの種糸設置以降、毎年実施 ＜2016 年度＞ ・2016 年 4 月 9 日 第 43 回 菜の花の観察 ・2016 年 4 月 30 日 第 44 回 菜の花の観察 ・2016 年 5 月 29 日 第 45 回 菜の花の刈取り ・2016 年 6 月 19 日 第 46 回 菜種の収穫 ・2016 年 7 月 30 日 第 47 回 直立護岸に付着する生物の剥ぎ取り、剥ぎ取った生物の堆肥化 ・2016 年 9 月 3 日 第 48 回 ヒマワリ畑作り ・2016 年 11 月 6 日 第 49 回 菜の花畑作り ・2016 年 12 月 25 日 第 50 回 ワカメの種糸設置 ・2017 年 1 月 22 日 第 51 回 ワカメの生長観察、菜の花観察 ・2017 年 2 月 25 日 第 52 回 ワカメの生長観察、菜の花観察 ・2017 年 3 月 26 日 第 53 回 フォーラム開催 2018 年度も活動継続中			

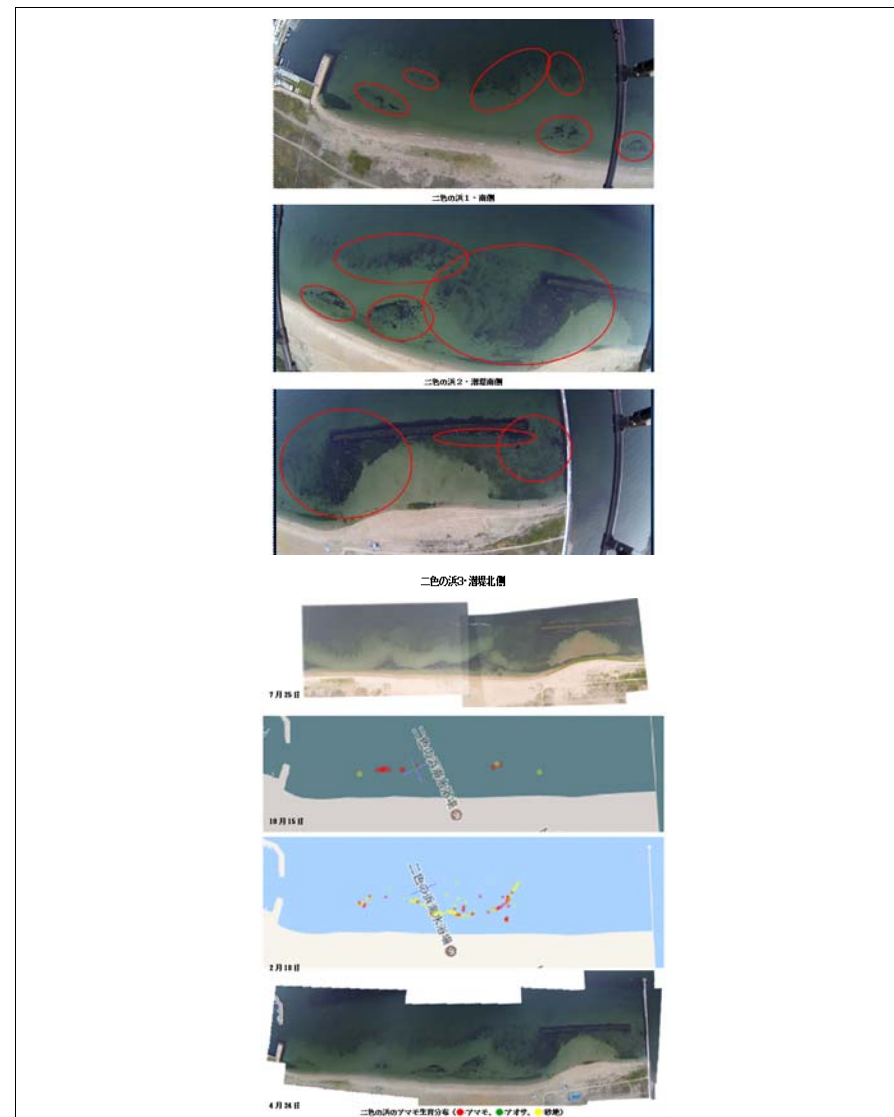


関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：ワカメ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑦)

藻場の名称	りんくうタウン地先		
海域（府県）名*1	大阪湾（大阪府）	エリア名*1	
藻場の面積	面積不明 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	りんくう 5 協が関空前沿岸部(樽井サザンビーチ～二色の浜公園)でのアマモ場再生事業を平成 15 年度より行い、樽井サザンビーチ、岡田浦、二色の浜ではアマモが定着し、藻場面積が増大している。		
保全の取り組み名称	りんくうタウンアマモ場調査		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） りんくう沿岸部の樽井、岡田浦、二色の浜でドローンにより高度 100m から海底面を空撮し、海底面の陰影からアマモの分布域を調査する。また、船上より水中ビデオを水中に降ろし、空撮で海底の陰影がある部分の海域で船を行き来し、GPS による船の位置情報とビデオ映像の内挿された時刻を照合することで、海底の陰影がアマモかどうかを判定する。 （主な活動内容） 種の供給・再生 <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ） （最近の活動実績） 平成 29 年 4 月 24 日 （活動内容）ドローンによる海底の撮影			
 			
平成 28 年 10 月 15 日 （活動内容）"釣るとこみるぞう君"によるアマモの映像			
 			
調査結果 （活動内容）二色の浜公園前のアマモ場について示す			



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場の名称	兵庫運河（新川橋もと）		
海域（府県）名*1	大阪湾（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.1ha 出展：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	当水域は、港湾区域の水路内にあり、高度成長期の水質汚染により魚介藻類が絶滅状態になり、近年水質の改善により回復状況にある。		
保全の取り組み名称	アマモ場の保全活動		
実施団体名	兵庫運河の自然を再生するプロジェクト		
連絡先住所	〒652-0872 神戸市兵庫区吉田町 3-7-29 兵庫漁協内		
代表者名	糸谷安一	Email	
団体会員数	54 名	HP	
(活動の概要) アマモの株の移植			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
(現在の活動実績) ・28年 5月20日 (活動内容) 神戸市舞子漁港においてアマモの花穂を採取し、“根巻き”を行い、移植できる状態の株に加工した。 ・28年 6月 6日 (活動内容) 兵庫運河の新川橋もとにおいて、アマモの株の移植を行った。 ・29年 1月12日 (活動内容) 兵庫運河の新川橋もとにおいて、移植後のアマモの発芽状況を確認した。(発芽は確認できなかった) ・29年 5月10日 (活動内容) 4月19日に設移植したアマモの発芽チェックを行った。			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）： ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	



アマモの発芽確認



アマモの花穂

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑨)

藻場の名称	赤穂海浜公園前		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	3ha 出典：【平成 17 年度～平成 19 年度「台風による消失したアマモ場の現地調査とその回復事業」報告書（2008.3.31）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	遠浅の海岸で、台風による一時的な藻場面積の減少はあるが、自然に回復する安定したアマモ場である。		
保全の取り組み名称	アマモ種子の採取および保存事業		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） 赤穂海浜公園前のアマモ場で花枝(種子)を採取し、江井ヶ島港岸壁に設置した海水流下水槽に花枝を入れて養生し、1～2 か月後に鞘から分離した種子を雑物から選別する。選別したアマモ種子は使用時まで、4℃に設定した恒温高湿庫に保存しておく。 平成 15 年度より赤穂市・海っ子倶楽部、相生市・相生湾自然再生学習会議が地元小学校 3 年生児童の環境体験学習として行っているアマモ苗を育成し、移植するアマモ場再生事業に種子を融通し、協力している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 平成 17 年 6 月 22 日 （活動内容）アマモ花枝(種子)の採取  ・ 平成 28 年 6 月 18 日 （活動内容）アマモ種子の養生 			

- 平成 20 年 7 月 24 日
（活動内容）アマモ種子の選別



- 平成 25 年 8 月 19 日
（活動内容）アマモ種子の保存(恒温高湿庫:設定温度 4℃)



- 平成 27 年 10 月 29 日
（活動内容）アマモの種まき会(那波小学校、相生小学校)



*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑩)

藻場の名称	明石市・江井ヶ島海水浴場前		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.25ha 出典：【本アマモ場で地曳網を行っており、その際の目測による（2018.1.14）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	遠浅の海岸で、江井ヶ島港沖防波堤が設置されて西風の冬季風浪が遮蔽され、毎年花枝(種子)採取、移植用のアマモ株を採取しているが、藻場面積の減少することなく、安定したアマモ場である。しかし、海水交換が潮汐によるものだけで、アマモ場内に流入した細粒分がトラップされてアマモ場内に滞留するため、底質が軟泥化しており、将来アマモが一朝にして無くなることも考えられる。		
保全の取り組み名称	アマモ種子の採取および保存事業		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） 江井ヶ島海水浴場前のアマモ場で花枝(種子)を採取し、江井ヶ島港岸壁に設置した海水流下水槽に花枝を入れて養生し、1～2 か月後に鞘から分離した種子を雑物から選別する。選別したアマモ種子は使用時まで、4℃に設定した恒温高湿庫に保存しておく。 平成 15 年度よりりんくう 5 協が関空前沿岸部(樽井サザンビーチ～二色の浜公園)でのアマモ場再生事業、環境教育技術振興会や大阪海さくらが行っている小学生児童や市民によるアマモ場再生事業(せんなん里海公園)に種子を融通し、協力している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 26 年 6 月 29 日 （活動内容）アマモ花枝(種子)の採取  - 平成 27 年 11 月 12 日 （活動内容）アマモの種まき会(田尻小学校) 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑪)

藻場の名称	明石市・江井ヶ島海水浴場前		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.25ha 出典：【本アマモ場で地曳網を行っており、その際の目測による（2018.1.14）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	遠浅の海岸で、江井ヶ島港沖防波堤が設置されて西風の冬季風浪が遮蔽され、毎年花枝(種子)採取、移植用のアマモ株を採取しているが、藻場面積の減少することなく、安定したアマモ場である。しかし、海水交換が潮汐によるものだけで、アマモ場内に流入した細粒分がトラップされてアマモ場内に滞留するため、底質が軟泥化しており、将来アマモが一朝にして無くなることも考えられる。		
保全の取り組み名称	実感 アマモは海のゆりかごだ！		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） アマモ場にどんな生き物がどれほど棲んでいるか、小型地曳網を用いた自生アマモ場の生物調査を児童達や市民に自ら体験してもらい、獲れた生き物を自分の目で見て、触れることにより、海のゆりかごアマモ（アマモ場）の大切さを実感してもらい、その再生を目指す活動への理解と共感を広げることを目的にアマモ場に生息する生物の四季調査を兼ねて行っている。 （主な活動内容） 種の供給・再生 <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 <u>研修会・学習会</u> 他との協同連携 その他（ ）			

（最近の活動実績）

- 平成 28 年 9 月 25 日

（活動内容）アマモ場に生息する生物調査(夏季)



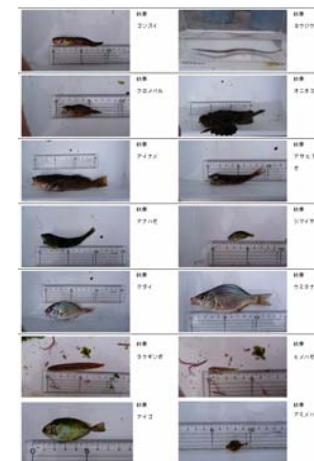
地曳網の様子



生き物の選り分け



神戸市立須磨海浜水族園の岩村飼育課長さんから生き物の説明

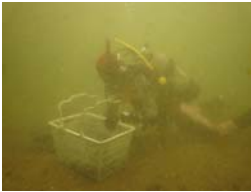


当日の採捕生物

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. ⑫)

藻場の名称	明石市・魚住沖浅場		
海域（府県）名*1	播磨灘（兵庫県）	エリア名*1	
藻場の面積	0ha 新たなアマモ場造成		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	加古川河口部の浚渫土砂で新たに造成された面積 450m×450m、天端高-5.0m の浅場上に、隣接した江井ヶ島海岸の自生アマモ場で採取した種子および栄養株を用い、新たなアマモ場を創出する。		
保全の取り組み名称	明石市魚住沖に新たに造成された浅場でのアマモ場造成事業		
実施団体名	特定非営利活動法人アマモ種子バンク		
連絡先住所	〒663-8142 西宮市鳴尾浜 1-1-8		
代表者名	出口一郎	Email	amamojimukyoku@amamobank.sakura.ne.jp
団体会員数	69 名	HP	http://www.amamobank.sakura.ne.jp
（活動の概要） 江井ヶ島海水浴場前のアマモ場で採取した栄養株を金網法により浅場上に移植する。また、採取保存した種子をアマモバック法により浅場上に播種する。そして、栄養株の活着状況、種子の発芽、生育状況を定期的に行う。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） 平成 30 年 1 月 14 日 （活動内容）アマモ場造成(金網法による栄養株の移植およびアマモバック法による播種)			
  アマモ栄養株の移植 アマモバック法による播種 平成 29 年 8 月 11 日 （活動内容）平成 28 年 12 月 18 日に移植した栄養株の追跡調査 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑬)

藻場の名称	玉野市山田港胸上地先		
海域（府県）名*1	播磨灘（岡山県）	エリア名*1	児島湾
藻場の面積	21.71 ha 出典：【岡山県（平成27年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	平成27年度の岡山県の調査により、砂泥域においてアマモ場が確認された。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生活動		
実施団体名	胸上漁業協同組合		
連絡先住所	〒706-0305 岡山県玉野市胸上1808		
代表者名	國屋利明	Email	
団体会員数	82名	HP	
（活動の概要） 胸上地先は、かつて広範囲にアマモが繁茂していたが、様々な環境の変化によりアマモ場が激減した。近年、海域環境の回復によりアマモ場が徐々に再生してきており、更なるアマモ場面積の増加を目指し、胸上漁業協同組合、玉野市及び岡山県が連携し、アマモ場再生活動を実施している。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（播種後の調査） （最近の活動実績） - 平成28年2月26日 底質調査及び藻場造成海域の選定 - 平成28年6月25日 アマモの種の採取 参加者 18名（漁業者、行政） - 平成28年9月17日 アマモの種の選別及び播種 参加者 16名（漁業者、行政） - 平成29年2月16日 発芽状況調査 - 平成29年6月27日 アマモの種の採取 参加者 23名（漁業者、行政） - 平成29年11月1日 アマモの種の選別及び播種 参加者 17名（漁業者、行政）			
 アマモの種子			
 アマモの種（花枝）の採取 H29/6/27			
 種の選別 H29/11/1			
 播種 H29/11/1			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
不明	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑭)

藻場の名称	玉野市山田港胸上地先		
海域（府県）名 ^{*1}	播磨灘（岡山県）	エリア名 ^{*1}	児島湾
藻場の面積	3.05ha 出典：【岡山県（平成27年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	平成27年度の岡山県の調査により、岩礁区域でガラモ場が確認された。		
保全の取り組み名称	浜の活力再生プラン推進事業（小型藻場ブロック設置）		
実施団体名	岡山県地域水産業再生委員会（玉野市役所農林水産課）		
連絡先住所	〒706-8510 岡山県玉野市宇野 1-27-1 玉野市役所農林水産課 （岡山県地域水産業再生委員会玉野市地区部会事務局）		
代表者名		Email	nourinsuisan@city.tamano.lg.jp
団体会員数		HP	
（活動の概要） 浜の活力再生プラン推進事業を活用し、ガラモの生育に適した海域に小型藻場ブロックを試験的に設置した。また、その後のガラモの定着効果を検証し、藻場再生を効率的に進めるための基礎資料とする。 （主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（小型藻場ブロックの設置、設置後の調査（予定）） （最近の活動実績） 平成29年11月9日 胸上地先に小型藻場ブロック24基を設置			
		 小型藻場ブロック	
 藻場ブロックの設置 1		 藻場ブロックの設置 2	

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：ガラモ ○植物：	
希少種の特徴等	
不明	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 15)

藻場の名称	備前市日生町地先		
海域（府県）名 ^{*1}	播磨灘（岡山県）	エリア名 ^{*1}	牛窓
藻場の面積	250 ha 出典：【岡山県（平成 27 年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	備前市日生町地先には大小 14 の島が点在し、本土と島々の間の静穏な海域にアマモが繁茂している。また、本地域のアマモの大半が 1 年生アマモであるので、衰退期にはアマモ場面積が大きく減少する。		
保全の取り組み名称	アマモ場「里海」プロジェクト		
実施団体名	日生町漁業協同組合		
連絡先住所	〒701-3204 岡山県備前市日生町日生 801-4		
代表者名	淵本重廣	Email	hinasegy@beach.ocn.ne.jp
団体会員数	141 名	HP	http://www.hinase.net
（活動の概要） 昭和 20 年代 590ha あったアマモ場は、高度経済成長期における様々な環境の変化により、昭和 60 年には 12ha にまで減少した。漁業者 19 名と漁協青年部 12 名が、わずかに残ったアマモの種を播き始めた昭和 60 年から活動は継続され、現在 250ha まで回復している。 なお、平成 24 年に日生町漁業協同組合、生活協同組合おかやまコープ、特定非営利活動法人里海づくり研究会及び岡山県の 4 者はアマモ場再生活動に係る連携協定を締結し、幅広い参加者による再生活動を実施している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 28 年 6 月 22 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 170 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 28 年 6 月 3 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 170 名（漁業者、おかやまコープ組合員、アマモサミット参加者、行政など） - 平成 28 年 9 月 30 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 80 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 28 年 10 月 15 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 100 名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など） - 平成 29 年 6 月 10 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 170 名（漁業者、おかやまコープ組合員、日本プロジェクト参加者、行政など） - 平成 29 年 6 月 14～16 日 アマモの種の採取（流れ藻採取） 参加者 約 280 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 29 年 10 月 14 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 100 名 （漁業者、おかやまコープ組合員、おかやま環境ネットワーク会員、行政など） - 平成 29 年 10 月 18 日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約 100 名（漁業者、日生町中学校生徒など） - 平成 29 年 11 月 6 日 アマモの播種 参加者 約 10 名（漁業者）			



アマモの種の採取（流れ藻採取）
H29/6/10



種の選別
H29/10/14

播種
H29/10/14

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：多様な魚介類 ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
不明	

藻場と保全の取り組み (No. ①⑥)

藻場の名称	瀬戸内市邑久町長島地先		
海域（府県）名*1	播磨灘（岡山県）	エリア名*1	牛窓
藻場の面積	170ha 出典：【岡山県（平成27年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	長島と本土に挟まれた静穏な海域に、アマモが繁茂している。本地域のアマモの大半が1年生アマモであるため、衰退期にはアマモ場面積が大きく減少する。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生活動		
実施団体名	邑久町漁業協同組合		
連絡先住所	〒701-4501 岡山県瀬戸内市邑久町虫明 4256		
代表者名	横山 満明	Email	ok-gyo@snw.ocn.ne.jp
団体会員数	182名	HP	

（活動の概要）

瀬戸内市邑久町地先には、かつては広大なアマモ場で存在していたが、様々な環境の変化により、アマモ場が激減した。近年、海域環境の回復により徐々にアマモ場が再生してきており、更なるアマモ場面積の増加を目指し、平成25年に邑久町漁業協同組合、生活協同組合おかやまコープ、特定非営利活動法人里海づくり研究会及び岡山県の4者がアマモ場再生活動に係る連携協定を連携し、幅広い参加者による再生活動を実施している。

（主な活動内容）

種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携
その他（ ）

（最近の活動実績）

- 平成28年6月15日 アマモの種の採取（流れ藻採取）
参加者 31名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）
- 平成28年10月19日 アマモの種の選別及び播種
参加者 22名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）
- 平成29年6月17日 アマモの種の採取（流れ藻採取）
参加者 31名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）
- 平成29年10月21日 アマモの種の選別及び播種
参加者 27名（漁業者、おかやまコープ組合員、行政など）



集合写真
H29/6/17



アマモの種の採取（流れ藻採取）
H29/6/17



種の選別
H29/10/21



播種
H29/10/21

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	☐ は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
・ 不明	

藻場と保全の取り組み (No. ⑰)

藻場の名称	さぬき市鴨庄地先		
海域（府県）名*1	播磨灘（香川県）	エリア名*1	瀬戸内海東部
藻場の面積	4 ha 出典：【平成28年度 実施団体調べ】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	志度湾東部、鴨部川の河口に位置するアマモ場。底質は砂、小礫。河川から流入する砂の堆積が見られる。		
保全の取り組み名称	藻場の保全（栄養塩の供給）		
実施団体名	鴨庄漁協活動組織		
連絡先住所	〒769-2102 香川県さぬき市鴨庄 4374 番地 30		
代表者名	山本 浩智	Email	
団体会員数	257 名	HP	
（活動の概要） アマモ場の増殖を図るため、漁業者等が河口部での施肥及び付近のため池の放水を実施し、海域への栄養塩供給を行う。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 <u>その他</u>（施肥及びため池の放水による海域への栄養塩供給）			
（最近の活動実績） - 平成27年12月～平成28年3月 施肥：延べ19回実施 ため池の放水：2箇所のため池を水抜き - 平成29年1月～3月 施肥：延べ27回実施 ため池の放水：1箇所のため池を水抜き			
			
施肥		放水中のため池	

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：未調査 ○藻場の生き物：有用水産物の幼稚仔魚 ○海藻（海草）：アマモ ○植物：未調査	
希少種の特徴等	
希少種は確認されていない。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. ⑱)

藻場の名称	笠岡市高島地先		
海域（府県）名*1	備讃瀬戸（岡山県）	エリア名*1	笠岡諸島
藻場の面積	2.42ha 出典：【岡山県（平成27年度 藻場分布状況調査）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	高島は、笠岡諸島のうち最も本土に近接した島であり、かつては島の周辺にアマモが繁茂していた。 笠岡諸島のうち最も本土に近接した島であり、本土及び諸島の漁師たちが協力して再生に取り組みやすい場所でもある。		
保全の取り組み名称	アマモ場再生事業		
実施団体名	笠岡地区漁業連絡協議会（大島美の浜漁協・笠岡市漁協）、豊かな海づくり協力会（幹事：生活協同組合おかやまコープ、天野産業株式会社 会員：神島 寺間・見崎里浜づくり）、特定非営利活動法人里海づくり研究会、笠岡市、岡山県		
連絡先住所	〒714-8601 岡山県笠岡市中央町1番地の1		
代表者名	笠岡市農政水産課長 江原 広一	Email	nouseisuisan@city.kasaoka.lg.jp
団体会員数	一 名	HP	
（活動の概要） 高島を含め笠岡市地先は、かつて広範囲にアマモが繁茂し、様々な魚介類が生息する豊かな海であった。近年、海域環境の回復によりアマモ場は徐々に再生してきているもののかつての豊かな海にまでは回復していない。そこで、当時の豊かな海を取り戻すために、平成28年に笠岡地区漁業連絡協議会（大島美の浜漁協・笠岡市漁協）、豊かな海づくり協力会（幹事：生活協同組合おかやまコープ、天野産業株式会社 会員：神島 寺間・見崎里浜づくり）、特定非営利活動法人里海づくり研究会、笠岡市、岡山県がアマモ場再生活動に係る連携協定を締結し、幅広い参加者による再生活動を実施している。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成28年6月18日 アマモの種の採取 参加者 約70人（漁業者、おかやまコープ組合員、地元企業、行政など） - 平成28年10月11日 アマモの種の選別及び播種 参加者 約50人（漁業者、おかやまコープ組合員、地元企業、行政など） - 平成29年6月17日 アマモの種の採取 参加者 約170人（漁業者、おかやまコープ組合員、地元企業、市場関係者、行政など） - 平成29年10月7日 アマモの種の選別・種まき 参加者 約70人（漁協組合員、おかやまコープ組合員、小学生、地元企業、行政など）			



アマモの種の採取
H29/6/20



種の選別
H29/10/7



種まき
H29/10/7



集合写真
H29/6/20

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	希少種
○野鳥：－ ○藻場の生き物：ワレカラ類、ヨコエビ類、ゴカイ類、アオリイカ、カミナリイカ、タツノオトシゴ、スズキ、クロダイ、メバル、ボラ、イシガニ、クルマエビ等 ○海藻（海草）：アマモ、ワカメ ○植物：－	
希少種の特徴等	
不明	

藻場と保全の取り組み (No. ①⑨)

藻場の名称	呉市下蒲刈町地先, 音戸町地先, 蒲刈町地先, 川尻町地先		
海域(府県)名*1	燐灘・早瀬瀬戸(広島県)	エリア名*1	瀬戸内海中部
藻場の面積	ha 出典:【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他()		
藻場の特徴			
保全の取り組み名称	藻場の造成		
実施団体名	呉市産業部農林水産課		
連絡先住所	〒737-8501 広島県呉市中央4丁目1番6号 呉市農林水産課		
代表者名	新原芳明	Email	nourinsui@city.kure.lg.jp
団体会員数	約2000名	HP	https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/38/
(活動の概要) 漁業資源の増大と水産物の安定供給を図るため、藻場(ガラモ場)造成事業等を進めています。自然環境の変化等の影響により、藻場が衰退した場所へ石材を投入し、藻場の着生を促しています。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他(藻場の造成)			
(最近の活動実績) - 平成27年度実施地区及び造成面積 下蒲刈町及び川尻町 1. 6ha - 平成28年度実施地区 蒲刈町及び音戸町 1. 6ha			
 			

*1:「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」(環境省: H28年~30年) 参照

関連する生物種等	は希少種
調査していない	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

藻場と保全の取り組み (No. 20)

藻場の名称	西条市壬生川地先		
海域（府県）名*1	燧灘（愛媛県）	エリア名*1	瀬戸内海中部
藻場の面積	ha 出典：【（ ）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場	その他（アマモ）	
藻場の特徴	底質は砂地。アマモが若干見られる程度で、大きな群落は形成されていない。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	西条市藻場づくり環境保全協議会		
連絡先住所	〒799-1394 愛媛県西条市周布 349-1		
代表者名	近藤 達也	Email	-
団体会員数	20 名	HP	-
（活動の概要）			
・アマモの移植及び播種 ・流域における植林 ・モニタリング			
・教育と啓発の場の提供（出前事業）			
・漁村の伝統文化、食文化などの伝承機会の提供（魚を使った高校生料理コンテスト）			
（主な活動内容）			
<u>種の供給・再生</u> <u>調査研究</u> 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 <u>他との協同連携</u>			
その他（			

- ・平成28年6月18日～11月19日
（活動内容）アマモの移植及び播種



- ・平成29年2月18日
（活動内容）流域における植林



*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. 21)

藻場の名称	西条市港新地		
海域（府県）名*1	燧灘（愛媛県）	エリア名*1	中部海域
藻場の面積	ha 出典：【（ ）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場	ワカメ場	その他（クロメ）
藻場の特徴	大きな群落は見られず、クロメやワカメが点在している。		
保全の取り組み名称	藻場の保全、種苗投入		
実施団体名	西条地区環境保全活動組織		
連絡先住所	〒793-0043 西条市樋之口 445-1		
代表者名	藤田 一也	Email	-
団体会員数	43 名	HP	-
（活動の概要） 藻場の保全・回復のため、貝殻ブロックを投入。ブロック及び周辺へ海藻を移植予定。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成 28 年 12 月 1 日 （活動内容）貝殻ブロック投入   - 平成 28 年 12 月 20 日 ～ 平成 29 年 3 月 24 日 （活動内容）モニタリング  			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物： ○海藻（海草）：クロメ、ワカメ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 22)

藻場の名称	広島市南区元字品灯台下		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
藻場の面積	ha 出典：【（）】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（）		
藻場の特徴	当該地域は、広島湾北部海域に属し人口密度の多い市内を流れた水は、当該地域で攪拌し、海との接点をよく表している。		
保全の取り組み名称	せとうち海援隊		
実施団体名	広島環境サポーターネットワーク河川海洋部会		
連絡先住所	〒739-0321 広島市安芸区中野六丁目 24-11-21		
代表者名	保光 義文	Email	
団体会員数	55 名	HP	
（活動の概要） 1997 年から太田川上流域を中心として広島市市街地近郊の中小河川を調査している。 また、海域では、太田川や海田湾における河口干潟の調査をし、広島大学などの干潟調査に参画・協力をしている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（）			
（最近の活動実績） 【海洋部会】 平成 29 年 2 月 12 日（日） 元字品灯台下 〃 5 月 11 日（土） 倉橋鹿島の瀬戸 〃 7 月 9 日（日） 似の島深浦 〃 8 月 20 日（日） 坂鯛尾の磯 【河川部会】 平成 29 年 2 月 19 日（日） 三篠川太田川合流地点 〃 3 月 5 日（日） 宇賀峡 〃 5 月 7 日（日） 三段峡 【定点観測】 平成 29 年 4 月 9 日（日） 広島駅前大橋 〃 6 月 25 日（日） 太田川放水路 〃 7 月 23 日（日） 広島駅前大橋 【出前講座】 平成 29 年 10 月 3 日（金） 太田川放水路干潟生物調査 外 5 件			



関連する生物種等	は希少種
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

藻場と保全の取り組み (No. 23)

藻場の名称	永田川河口干潟の藻場		
海域（府県）名*1	広島湾（広島県）	エリア名*1	
藻場の面積	0.1ha 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	コアマモ		
藻場の特徴	アマモは増殖していたが、2016～2017 にかけて底引き網により削り取られ、皆無です。		
保全の取り組み名称	永田川河口干潟環境の保全再生プロジェクト		
実施団体名	永田川カエル倶楽部		
連絡先住所	〒737-2302 江田島市能美町鹿川 558-1		
代表者名	池田朝雄	Email	consaru-kks@luck.ocn.ne.jp
団体会員数	29 名	HP	
（活動の概要） ① 2015 年と 2017 年の夏休みに藻場の生息域調査を永田川河口干潟で実施 ② アマモは増殖していたが、底引き網漁で削り取られ、皆無になった。 ③ 6 月にアオリイカ、コウイカの産卵調査			
（主な活動内容） 干潟清掃 藻場の測量			
   			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： カワウ、アオサギ、カモメ、ヒドリガモ、コガモ ○藻場の生き物：コウイカの卵、アオリイカの卵、イシガニ、ハオコゼ ○海藻（海草）：アオサ、ミル、ヒジキ、カキヒビの杭の根元にワカメ ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

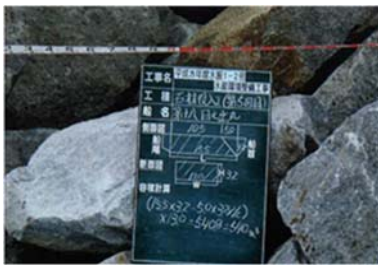
藻場と保全の取り組み (No. 24)

藻場の名称	柳井市 伊保庄地先・阿月地先		
海域（府県）名*1	伊予灘（山口県）	エリア名*1	
藻場の面積	ha 出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	柳井湾の奥部に位置し、稚仔魚の育成場として機能している。沖合域では日本三大潮流の一つと言われる大島瀬戸が位置しており、柳井周辺はマダイの好漁場ともなっている。		
保全の取り組み名称	アマモの移植、播種		
実施団体名	柳井藻場保全グループ		
連絡先住所	〒742-1352 山口県柳井市伊保庄 622 番地 1		
代表者名	酒井 章	Email	fukutoku64@gmail.com
団体会員数	28名	HP	なし
（活動の概要） 当該海域でのアマモ場が著しく衰退していることから、アマモの移植及び播種を行うことで、アマモ場の回復と機能の維持を図る。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） 平成29年6月23日：柳井市立柳井南中学校生徒を対象にアマモ場の生物観察、花枝採取を実施 平成29年7月12日、21日：アマモ種の採取作業 平成29年12月：アマモ種の播種作業（予定）			
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：メバル、ハオコゼ、ヨウジウオ、アミメハギ、タナゴが優占 その他、クサフグ、ヨロイメバル、アイナメ、アサヒアナハゼ、ヒイラギ、キュウセン、ギンボ、テナガスジエビ、タイワンガザミ、ガザミ、イシガニ、その他カニ類、イカ類、ホソモエビ、コシアガリモエビ、その他エビ類2種。エビジャコ類、ヒトデ類、ヨコエビ類、ワレカラ、アオリイカ、ウミウシ、アメフラシ（卵塊） ○海藻（海草）： ○植物：	
希少種の特徴等	
「調査していない」	

藻場と保全の取り組み (No. 25)

藻場の名称	国東漁場		
海域（府県）名*1	伊予灘（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	2.5ha 出典：【国東地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（不明）		
藻場の特徴	調査を実施していないため不明		
保全の取り組み名称	藻場の造成		
実施団体名	大分県農林水産部水産振興課		
連絡先住所	〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1		
代表者名	安原 翔太	Email	Yasuhara-shiyota@pref.oita.lg.jp
団体会員数	14 名	HP	https://www.pref.oita.jp
（活動の概要） 海域及びこれに接続する陸地において、有用水産物の発生及び生育に適した環境を整備するために着底基質の設置（投石、コンクリートブロック等の設置）や餌料培養機能を備えた構造物の設置などを行っています。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） ・実施年度：平成 24 年度～平成 25 年度 ・対象漁業種類：釣り、刺網、はえ縄 ・対象魚種：メバル ・造成面積：平成 24 年度 17,640 m²、平成 25 年度 7,360 m² ※写真：H25 年度の投石で使用した石材			
 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： 未調査 ○藻場の生き物： メバル ○海藻（海草）： 未調査 ○植物： 未調査	
希少種の特徴等	
未調査のため不明	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 26)

藻場の名称	亀川漁場		
海域（府県）名*1	伊予灘（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	1.5ha 出典：【別府湾地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 <u>その他</u> （不明）		
藻場の特徴	調査を実施していないため不明		
保全の取り組み名称	水産環境整備事業		
実施団体名	大分県農林水産部水産振興課		
連絡先住所	〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1		
代表者名	安原 翔太	Email	Yasuhara-shiyota@pref.oita.lg.jp
団体会員数	14 名	HP	https://www.pref.oita.jp
（活動の概要） 海底及びこれに接続する陸地において、有用水産物の発生及び生育に適した環境を整備するために着底基質の設置（投石、コンクリートブロック等の設置）や餌料培養機能を備えた構造物の設置などを行っています。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 <u>その他</u>（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） ・実施年度：平成 25 年度～平成 26 年度 ・対象漁業種類：釣り、刺網 ・対象魚種：カサゴ、メバル ・造成面積：平成 25 年度 8,370 m²、平成 26 年度 6,630 m² ※写真：H26 年度の投石で使用した石材			
 			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： 未調査 ○藻場の生き物： メバル、カサゴ ○海藻（海草）： 未調査 ○植物： 未調査	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

藻場と保全の取り組み (No. 27)

藻場の名称	姫島漁場		
海域（府県）名*1	周防灘（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	2.5ha 出典：【国東地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 ガラモ場 アラメ・カジメ場 ワカメ場 <u>その他</u> （不明）		
藻場の特徴	調査を実施していないため不明		
保全の取り組み名称	水産環境整備事業		
実施団体名	大分県農林水産部水産振興課		
連絡先住所	〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1		
代表者名	安原 翔太	Email	Yasuhara-shiyota@pref.oita.lg.jp
団体会員数	14 名	HP	https://www.pref.oita.jp
（活動の概要） 海域及びこれに接続する陸地において、有用水産物の発生及び生育に適した環境を整備するために着底基質の設置（投石、コンクリートブロック等の設置）や餌料培養機能を備えた構造物の設置などを行っています。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 <u>その他</u>（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） ・実施年度：平成 24 年度～平成 26 年度 ・対象漁業種類：釣り、刺網、はえ縄 ・対象魚種：メバル ・造成面積：平成 24 年度 11,638 m²、平成 25 年度 5,612 m²、平成 26 年度 7,750 m² ※写真は、H26 年度の投石の様子  			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： 未調査 ○藻場の生き物： メバル ○海藻（海草）： 未調査 ○植物： 未調査	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 28)

藻場の名称	伊方町塩成、川之浜海岸		
海域（府県）名*1	豊後水道（愛媛県）	エリア名*1	西部海域
藻場の面積	ha 出典：【 () 】		
藻場のタイプ	アマモ場	ガラモ場	アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（クロメ）
藻場の特徴	自然の砂浜、磯がある貴重な浜。		
保全の取り組み名称	藻場の保全（食害生物の除去） ガンガゼの駆除		
実施団体名	瀬戸地区環境保全協議会		
連絡先住所	〒796-0502 愛媛県西宇和郡伊方町三机乙 2989-13		
代表者名	和田 稔治	Email	k-matamoto@jf-yawatahama.or.jp
団体会員数	25 名	HP	-
（活動の概要） 磯焼けの要因のひとつであるガンガゼの食害の低減を図るため、海士が素潜りで駆除し個体数の管理を行っている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） - 平成28年12月12日 ガンガゼモニタリング（1名） - 平成28年12月15日 ガンガゼ駆除（9名） - 平成29年1月31日 ガンガゼモニタリング（1名） - 平成29年2月24日 ガンガゼ駆除（9名） - 平成29年2月28日 ガンガゼモニタリング（1名） - 平成29年3月22日 ガンガゼモニタリング（3名）			
 			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： トビ、カモメ、ウミネコ、サギ ○藻場の生き物：サザエ、アワビ、ニナ、ウニ ○海藻（海草）：ヒジキ、フノリ、ワカメ、アオサ、クロメ、ガラモ、アマモ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 29)

藻場の名称	伊方町 九町女子鼻		
海域（府県）名*1	豊後水道（愛媛県）	エリア名*1	西部海域
藻場の面積	出典：【 （ ） 】		
藻場のタイプ	アマモ場	ガラモ場	アラメ・カジメ場 ワカメ場 その他（クロメ場）
藻場の特徴	海藻が多く赤ウニ・アワビ等が多く生息している漁場である。		
保全の取り組み名称	藻場の保全（食害生物の除去） ガンガゼの駆除		
実施団体名	町見地区環境保全協議会		
連絡先住所	〒796-0422 愛媛県西宇和郡伊方町二見甲 1251 番地 5		
代表者名	古田 睦	Email	machimi-inoue@md.pikara.ne.jp
団体会員数	23 名	HP	-
（活動の概要） 磯焼けの要因の一つであるガンガゼの食害の低減を図るため、海士が素潜りで駆除し個体数の管理を行っている。			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 磯清掃 食害動物駆除 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
（最近の活動実績） ・ 29 年 10 月 2 日 （活動内容） 藻場を保全するためガンガゼの駆除を行っている。			
  			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：アワビ、サザエ ○海藻（海草）：クロメ、ヒジキ、ホンダワラ ○植物：	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない。	

藻場と保全の取り組み (No. 30)

藻場の名称	佐伯湾		
海域（府県）名*1	豊後水道（大分県）	エリア名*1	
藻場の面積	78ha 出典：【豊後水道南部地区水産環境整備事業 実績台帳】		
藻場のタイプ	アマモ場 <u>ガラモ場</u> <u>アラメ・カジメ場</u> ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	佐伯湾はリアス式海岸にあり、背後に山地が控えてあるため、そこから流れてくる栄養分に富んだ淡水により、身質に優れた魚介類が多く生息している。		
保全の取り組み名称	佐伯湾地区藻場保全活動		
実施団体名	佐伯湾地区藻場保全活動組織		
連絡先住所	〒876-1202 大分県佐伯市鶴見大字地松浦206-16		
代表者名	軸丸 幸信	Email	takamasa-shiotsuki@city.saiki.lg.jp
団体会員数	58名	HP	
（活動の概要） ・藻食生物の除去・モニタリング（現状把握・効果調査）・母藻設置 ・岩盤清掃			
（主な活動内容） 種の供給・再生 調査研究 <u>磯清掃</u> <u>食害動物駆除</u> 研修会・学習会 他との協同連携 その他（着底基質（石材）の沈設）			
（最近の活動実績） ・29年11月1日 （活動内容） ・藻食生物の除去（ガンガゼ駆除） 母藻を設置する箇所やガンガゼの大量発生が確認される箇所での駆除作業を実施した。 ・29年11月2日 （活動内容） ・母藻設置 母藻の設置が効果的と考えられる箇所において、クロメ母藻の設置作業を実施した。 ・29年11月3日 （活動内容） ・藻食生物の駆除（ブダイ、メジナ類） 藻類の着生に悪影響を与えていると考えられる箇所において、食害魚類（ブダイ）の駆除作業を実施した。  写真1. ガンガゼ駆除の様子①  写真2. ガンガゼ駆除の様子②  写真3. 母藻設置の様子			

関連する生物種等	は希少種
○野鳥：未調査 ○藻場の生き物：メジナ、ベラ、マダコ、ブダイ ○海藻（海草）：ガラモ、カジメ、アラメ ○植物：未調査	
希少種の特徴等	
希少種は存在しない	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28年～30年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 31)

藻場の名称	六連島藻場		
海域（府県）名*1	響灘（山口県）	エリア名*1	
藻場の面積	ha 出典：【（ ）】		
藻場のタイプ	アマモ場 <u>ガラモ場</u> <u>アラメ・カジメ場</u> ワカメ場 その他（ ）		
藻場の特徴	ガラモとアラメが繁茂していたが、平成 25 年に 30℃を超える高水温塊の影響でアラメが枯死し、現在はガラモを中心とする藻場を形成している。底質は礫、岩礁。サザエ、アワビ、ウニ類の好漁場となっている。		
保全の取り組み名称	食害生物（ムラサキウニ）除去、アラメの母藻及び種苗の投入		
実施団体名	六連島藻場保全グループ		
連絡先住所	〒750-0095 山口県下関市大字六連島 1		
代表者名	高端 輝雄	Email	
団体会員数	21 名	HP	
(活動の概要) 藻場保全のため、食害生物の除去や藻場の構成種である海藻の母藻及び種苗の投入を行う。			
(主な活動内容) <u>種の供給・再生</u> 調査研究 磯清掃 <u>食害動物駆除</u> 研修会・学習会 他との協同連携 その他（ ）			
(最近の活動実績) 平成 29 年 5 月 24 日、6 月 12 日、8 月 29 日、11 月 13 日：食害生物除去 平成 29 年 5 月 25 日：ヒジキ母藻の設置 平成 29 年 6 月 12 日：モニタリング			





ヒジキ母藻の設置



食害生物除去

関連する生物種等	は希少種
○野鳥： ○藻場の生き物：アワビ、サザエ、ウニ類、メバル等の魚類、イカ類、ヨコエビ類等の甲殻類等 ○海藻（海草）：アラメ、カジメ、ヒジキ、ホンダワラ類、ワカメ等 ○植物：	
希少種の特徴等	
「希少種は存在しない」	

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

藻場と保全の取り組み (No. 32)

藻場の名称	北九州市小倉北区馬島地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	5 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	馬島活動組織		
連絡先住所	〒802-0092 北九州市小倉北区大字馬島 309 番地		
代表者名	前田 秀雄	Email	—
団体会員数	21 名	HP	—
(活動の概要) 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去している。			
(主な活動内容) 食害動物駆除			
(最近の活動実績) ・平成 28 年 7 月 31 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 8 月 7 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 8 月 27 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 9 月 11 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 9 月 24 日 食害生物の除去（ウニ類）			
食害生物の除去（ウニ類）			
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等			は希少種
○海藻；緑藻綱 2 種、褐藻綱 19 種、紅藻綱 22 種の計 43 種が出現			
緑藻綱	アオサ目	アオサ科	アナアオサ
	シオグサ目	シオグサ科	シオグサ属の一種
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	ヘラヤハズ
			シウヤハズ
			アミジグサ
			サナダグサ
			ウミウチワ
			フクリンアミジ
			シマオオギ
	カヤモノリ目	カヤモノリ科	フクロノリ
	コンブ目	チガイノ科	ワカメ
		カジメ科	ツルアラメ
			アラメ
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ホンダワラ
			ヒジキ
			ノコギリモク
			トゲモク
			メタワラ
			ウスバノコギリモク
			ヨレモク
			エンドウモク
紅藻綱	サンゴモ目	サンゴモ科	カニノテ属の一種
			サンゴモ属の一種
			モサズキ属の一種
			無節サンゴモ
	テングサ目	テングサ科	テングサ属の一種
			オバクサ
スギノリ目	ナミイワタケ科		ナミイワタケ
	スギノリ科		ツノマタ
			ツノマタ属の一種
			ムカデノリ科
			フダラク
			イバラノリ科
			イバラノリ
			イワノカワ科
			エツキイワノカワ
			イワノカワ科
			オキツノリ科
			オキツノリ
			ユカリ科
			ユカリ
			ナミノハナ科
			ホシバナナミノハナ
マサゴシバリ目	ワツナギソウ科		ヒラワツナギソウ
			ワツナギソウ
イギス目	イギス科		アミクサ
	フジマツモ科		ヤナギノリ属の一種
			ソノ属の一種
			コザネモ
○藻場の生き物；11 科 19 種の魚類が出現			
スズキ目	メバル科	カサゴ	
		メバル	
		フサカサゴ科	フサカサゴ科
		タイ科	クロダイ
			マダイ
		ウミタナゴ	ウミタナゴ
		スズメダイ科	スズメダイ
		イシダイ科	イシダイ
		メジナ科	メジナ*
		ベラ科	コブダイ
			ホシササノハベラ
			キュウセン
			ホンベラ
	アイナメ科	クジメ	
	ハゼ科	サビハゼ	
		チャガラ	
		ドロメ	
フグ目	フグ科	ショウサイフグ	
		クサフグ	
希少種の特徴等			
希少種は存在しない。			

藻場と保全の取り組み (No. 33)

藻場の名称	北九州市小倉北区藍島地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	10 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	藍島藻場保全部会		
連絡先住所	〒802-0091 北九州市小倉北区大字藍島 32 番地 3		
代表者名	二見 隆	Email	—
団体会員数	7 4 名	HP	—
(活動の概要) 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去するほか、海藻の種苗生産を行っている。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 食害動物駆除			
(最近の活動実績) ・H28 年 7 月 30 日 食害生物の除去（ウニ類） ・H28 年 8 月 20 日 食害生物の除去（ウニ類） ・H28 年 10 月 15 日 食害生物の除去（ウニ類） ・H28 年 10 月 24 日 海藻の種苗生産 ・H28 年 11 月 4 日 海藻の種苗生産 ・H29 年 2 月 25 日 海藻の種苗生産			
食害生物の除去（ウニ類）		海藻の種苗生産	
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等

は希少種

○海藻（海草）；海藻は、緑藻綱 5 種、褐藻綱 13 種、紅藻綱 16 種が出現し、単子葉植物綱（海草）1 種を合わせて計 35 種が出現

緑藻綱	アオサ目	アオサ科	アナアオサ アオサ属の一種	
	シオグサ目	シオグサ科	シオグサ属の一種	
	ミル目	ミル科	ミル ハイミル	
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	ヤハズグサ	
			シワヤハズ	
			アミジグサ	
			ウミウチワ	
			シマオオギ	
	コンブ目	チガイソ科	ワカメ	
		カジメ科	ツルアラメ	
			アラメ	
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ヒジキ	
			ノコギリモク	
			ヤナギモク	
			ウスバノコギリモク	
			エンドウモク	
	紅藻綱	ウミゾウメン目	ガラガラ科	ヒラガラガラ
		サンゴモ目	サンゴモ科	カニノテ属の一種
無節サンゴモ				
テングサ目		テングサ科	マクサ	
スギノリ目		スギノリ科	オバクサ	
			カイノリ	
			ツノマタ	
			イバラノリ科	イバラノリ
			ツカサノリ科	トサカモドキ属の一種
			イワノカワ科	エツキイワノカワ
			イワノカワ科	イワノカワ科
		ユカリ科	ユカリ	
マサゴシバリ目		ワツナギソウ科	ヒラワツナギソウ	
		フシツナギ科	フシツナギ	
		イグス目	フジマツモ科	ソゾ属の一種
			イトグサ属の一種	
単子葉植物綱	オモダカ目	アマモ科	アマモ	

○藻場の生き物；6 科 11 種の魚類が出現

スズキ目	メバル科	カサゴ メバル
		テンジクダイ科
		ネンブツダイ
		タイ科
		マダイ
	スズメダイ科	スズメダイ
		ベラ科
		ホシササノハベラ キュウセン ホンベラ
	ハゼ科	サビハゼ チャガラ クツワハゼ

希少種の特徴等

希少種は存在しない

藻場と保全の取り組み (No. 34)

藻場の名称	北九州市若松区大字安屋地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	10 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	脇田藻場保全部会		
連絡先住所	〒808-0124 北九州市若松区大字安屋 1742 番地		
代表者名	本田 剛	Email	
団体会員数	33 名	HP	
(活動の概要) 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去するほか、母藻の設置を行っている。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 食害動物駆除			
(最近の活動実績) ・平成 28 年 7 月 23 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 9 月 10 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 10 月 15 日 食害生物の除去（ウニ類） ・平成 28 年 10 月 21 日 母藻の設置 ・平成 28 年 11 月 12 日 母藻の設置			
食害生物の除去（ウニ類）		母藻の設置	
			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等			は希少種
○海藻；緑藻綱 1 種、褐藻綱 17 種、紅藻綱 15 種の計 33 種が出現			
緑藻綱	シオグサ目	シオグサ科	シオグサ属の一種
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	ヤハズグサ
			シワヤハズ
			アミジグサ属の一種
			ウミウチワ
			シマオオギ
	コンブ目	チガイノ科	ワカメ
		カジメ科	ツルアラメ
			アラメ
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ホンダワラ
			イノモク
			アカモク
			ノコギリモク
			ヤツマタモク
			マメタワラ
			ヤナギモク
			ウスバノコギリモク
			エンドウモク
紅藻綱	ウミゾウメン目	ガラガラ科	ソデガラミ
			ヒラガラガラ
	サンゴモ目	サンゴモ科	カニノテ属の一種
			サンゴモ属の一種
			モサズキ属の一種
			ヘリトリカニノテ属の一種
			無節サンゴモ
	テングサ目	テングサ科	オハバサ
	スギノ目	ナミイワタケ科	ナミイワタケ
		ツカサノリ科	トサカモドキ属の一種
		イワノカワ科	エツキイワノカワ
			イワノカワ科
		ユカリ科	ホソユカリ
			ユカリ
	イギス目	イギス科	アミクサ
○藻場の生き物；14 科 26 種の魚類が出現			
スズキ目	メバル科	カサゴ	
		メバル	
	ハタ科	キジハタ	
	テンジクダイ科	ネンブツダイ	
	アジ科	マアジ	
		シマアジ	
	タイ科	クロダイ	
		マダイ	
	ウミタナゴ科	ウミタナゴ	
	スズメダイ科	スズメダイ	
	ベラ科	オハグロベラ	
		ホシササノハベラ	
		イトベラ	
		キュウセン	
		ホンベラ	
		クジメ	
	カジカ科	スイ	
		オビアナハゼ	
		アサヒアナハゼ	
		アナハゼ	
	ネズツボ科	ネズツボ科	
	ハゼ科	クツワハゼ	
		ドロメ	
	ニザダイ科	ニザダイ	
カレイ目	ヒラメ科	ヒラメ	
フグ目	カワハギ科	ウマツラハギ	
希少種の特徴等			
希少種は存在しない			

藻場と保全の取り組み (No. 35)			
藻場の名称	北九州市若松区大字小竹地先沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	10 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	協の浦磯資源保全部会		
連絡先住所	〒808-0008 北九州市若松区大字小竹 3008 番地の 7		
代表者名	崎野 隆則	Email	
団体会員数	44 名	HP	
(活動の概要) 藻場保全のため、ウニ等の食害生物を除去している。			
(主な活動内容) 食害動物駆除			
(最近の活動実績) ・平成 28 年 7 月 16 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 7 月 30 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 8 月 6 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 9 月 17 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 9 月 24 日 食害生物の除去 (ウニ類) ・平成 28 年 10 月 22 日 食害生物の除去 (ウニ類)			
食害生物の除去 (ウニ類)  			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等			は希少種
○海藻；緑藻綱 3 種、褐藻綱 16 種、紅藻綱 18 種の計 37 種が出現			
緑藻綱	シオグサ目	ウキオリソウ科	アミモユ
		シオグサ科	シオグサ属の一種
	ミル目	ミル科	ミル
褐藻綱	アミジグサ目	アミジグサ科	フタエオオギ
			ウミウチワ
			コナウミウチワ
			シマオオギ
	コンブ目	チガイソ科	ワカメ
		カジメ科	ツルアラメ
	ヒバマタ目	ホンダワラ科	ジョロモク
			キレバモク
			ホンダワラ
			アカモク
			ノコギリモク
			ヤツマタモク
			マメタワラ
			ウスバノコギリモク
			ヨレモク
			エンドウモク
紅藻綱	ウミソウメン目	ガラガラ科	ソデガラミ
			ヒラガラガラ
	サンゴモ目	サンゴモ科	カニノチ属の一種
			サンゴモ属の一種
			モサズキ属の一種
			無節サンゴモ
	テングサ目	テングサ科	マクサ
			テングサ属の一種
			オバクサ
	スギノ目	ナミイワタケ科	ナミイワタケ
		ツカサノリ科	トサカモドキ属の一種
		イワノカワ科	エツキイワノカワ
			イワノカワ科
		ユカリ科	ユカリ
		ミリン科	トサカナリ
	オゴノ目	オゴノリ科	カバノリ
	イギス目	コノハノリ科	スジウスバノリ
		フジマツモ科	イトグサ属の一種
○藻場の生き物；14 科 22 種の魚類が出現			
スズキ目	メバル科	カサゴ	
		メバル	
	ハオコゼ科	ハオコゼ	
	テンジクダイ科	ネンブツダイ	
	アジ科	マアジ	
	タイ科	クロダイ	
		マダイ	
	ウミタナゴ科	ウミタナゴ	
	スズメダイ科	スズメダイ	
	インダイ科	インダイ	
	ベラ科	オハグロベラ	
		ホシササノハベラ	
		イトベラ	
		カミナリベラ	
		キュウセン	
		ホンベラ	
	カジカ科	アサヒアナハゼ	
		アナハゼ	
	トラギス科	トラギス	
	アイゴ科	アイゴ	
フグ目	カワハギ科	ウマツラハギ	
	フグ科	ヒガンフグ	
希少種の特徴等			
希少種は存在しない			

藻場と保全の取り組み (No. 36)

藻場の名称	北九州市地先関門地区沿岸		
海域（府県）名*1	響灘（福岡県）	エリア名*1	
藻場の面積	4 ha 出典：【水産多面的機能発揮対策に係る協定書】		
藻場のタイプ	ガラモ場 アラメ・カジメ場		
藻場の特徴	・底質は、岩盤や砂地、岩盤の所々では砂地や礫がみられる等、変化に富んでいる。 ・海藻の種類は、大型海藻から小型海藻まで、様々な海藻が出現する。 ・漁場としても利用されている。		
保全の取り組み名称	藻場の保全		
実施団体名	関門環境保全部会		
連絡先住所	〒803-0802 北九州市小倉北区東港1丁目5-17		
代表者名	藤島 賢太	Email	—
団体会員数	65 名	HP	—
(活動の概要) 藻場保全のため、「母藻の設置」のほか、「浮遊・堆積物の除去」を行っている。			
(主な活動内容) 種の供給・再生 その他（浮遊・堆積物の除去）			
(最近の活動実績) ・ H28 年 10 月 26 日 浮遊・堆積物の除去 ・ H28 年 11 月 1 日 浮遊・堆積物の除去 ・ H28 年 11 月 5 日 母藻の設置 ・ H28 年 12 月 22 日 母藻の設置 ・ H29 年 1 月 28 日 母藻の設置			
浮遊・堆積物の除去  			
母藻の設置  			

*1：「瀬戸内海における藻場・干潟分布状況調査」（環境省：H28 年～30 年）参照

関連する生物種等		は希少種
○海藻；緑藻綱 3 種、褐藻綱 11 種、紅藻綱 18 種の計 32 種が出現		
緑藻綱	シオグサ目 ミル目	シオグサ科 ミル科 ハイミル
褐藻綱	アミジグサ目 カヤモノリ目 コン目 ヒバマタ目	アミジグサ科 ヘラヤハズ シワヤハズ アミジグサ サナダグサ ウミウチワ フクロノリ ワカメ ツルアラメ ヒジキ ノギリモク エンドウモク
紅藻綱	サンゴモ目 テングサ目 スギノリ目 マサゴシバリ目 イギス目	サンゴモ科 カニノテ属の一種 無節サンゴモ マクサ オバクサ カイノリ マルバツノマタ ツノマタ ツノマタ属の一種 ムカデノリ科 ツノムカデ サクラノリ イバラノリ科 イバラノリ エツキイワノカワ イワノカワ科 ユカリ科 ユカリ フシツナギ科 フシツナギ マサゴシバリ科 マサゴシバリ マサゴシバリ科 スジウスバノリ
○藻場の生き物；15 科 21 種の魚類が出現		
スズキ目	メバル科	カサゴ メバル オニオコゼ科 オニオコゼ アジ科 マアジ イサキ科 イサキ タイ科 クロダイ マダイ ヒメジ科 ヒメジ スズメダイ科 スズメダイ イシダイ科 イシダイ メジナ科 メジナ ベラ科 ホシササノハベラ ホンベラ アイナメ科 クジメ カジカ科 アサヒアナハゼ ヘビギンボ科 ヘビギンボ ハゼ科 サビハゼ チャガラ アカオビシマハゼ フグ目 フグ科 ヒガンフグ コモンフグ
希少種の特徴等		
希少種は存在しない		